教訓
繪入

ひゝなこのくみ

十一

ロ9
1628
11

門口文
1028
11

第七の巻　陰陽を述　即　少学数学のおもむきし

京都帝国大学
附属図書館

性理精義巻之十一

述言第十一　此巻は第七の巻より中の巻なり

周易はいと陰陽のことをのべたるものにて神とのあつて陰陽の二気相ゆきかよひてはたらきをなすなり陰陽は霊妙なるものにて別に物あるにあらず陰陽のうごきをもつて陰陽は霊妙なるものにて別に物あるにあらずしかるにこれ鬼神なるものにてかりに物とかりなすなり陰陽すでに気なれば形あるものにて物かなるものにて物とつくりなすものにてもそのうちなくてはもとも奥もなくしてすべて陰陽は陰陽にてその霊妙なるものにてかぐ

天地人は陰陽とくれば陽とかりうりていへば陽
の霊なるゆえに神とかづけ陰の霊なるゆえに鬼とかづく
神は伸の字なり物生まれてその気伸びるといへば鬼は
帰の字なり気なり陽物つかへて帰るゆえ気なり陰気
なり鬼神の霊あきらかにてあざむくべからず又神
明とは天地万物の神なりて一神なるゆえにものくみ
そなはるゆゑに人の身よりまことに霊あるゆ
えにて人は万物の霊なり天地の中に人わろは人の身
のふるまひごとくなるゆえに人とは天地ひとしなりと
いへり人の神はたましゐとは陰陽よりくれば陽はたま

しゐとは陰陽よりくれば陽のたましゐを魂とひ陰の
しゐを魄とは心は魂魄のうちなり魂は気とはたらきなりて
口鼻のいきづかひのちりひろがるゆえなり魄は神とつくきうり
て耳目はたらきふれおぼえるの霊なりそもそも人の死
ぬるゆえはまづ神ぬるのちりにより人の身はれるをゆえはは
ち神ぬるのちりにより時やうやうとなりてをのをのひとりとれを
とりてのかうべとりとりとりて神ぬるゆえはつるた
二門ありてはかりなひこのはまりなりとりて神ぬは正
と神とは感応と申さんひとりの人のこころのたましゐとあり
神ぬと感ずるとは天地陰陽の神と人のたましゐとな

ゑとりのわなをゆへうるもどうしは夜ぜうなりうその神宮
なるゆへよ感涙もまことすゝやうるり燒のありてれくものと
てしひぐごやゝさてうなひとつふい人たるものぞてとく
とうぐあえさうけよ癒とわゝ暮とうて神ぬよくへばそ
のつぎ白よまぐひてゆうなりあるよ二うありてよハな
ま鍋どうなりうをそう夏徒と旅酒をうるとつふ二つよ福
といのう禍どうらのかなり祢とりうけたをあとひりしひう式
いよ人心中の酒ことけくしつまことうあるうぐさ神と
まうう初ぐさまとうといのうこれうるゆどうその毒うしあり
あやまうぐ人をばくるゆくいさだうれば心の祢とかれ神

とあひやうぐこれくうれどもつよその為とまりう幸式
ぬゝまぐうしとあせぐりゝんのうこしすぐうあわまハか
ま八威儀とうぐれうもけこに神ぬのまりりゝ初りとそを
その孫ひうけとあどれうるハ月うぐ四とてゝさうるぐど
やゝ酒て初りまどうるる式いのゝんとやりうそのふうさけ
まどう酒このいうぐうあわまバ初りてもまうそのまうる色
ふハとあどもかうこれ神ハ月うぐやどゝうぐどゝぬうさ
神式の奇よ
ふる人のうをみうけ為振神ハりぐとれうりうこれなく
いうれうるうそくうてゝはそうりゝる神のぬうりなりうれ

妙錦卷二

妙錦卷二

あまの神をまつる所をもまつりしてもまつる所をもまつりし
みなもとのいのうんもまつりにそむうあたと神やうてむ
うつたにまつるのみつよりあひあいのつどてもまつるむ
とうそ神まつる事あるひハ祖神その氏代宗廟といふ古の神
大数の神その社と社稷といふ或ハそのもろ所れ神天あハ天
地三光四方西風なとの神ともまつりあ郊の君ハそこの山川
とまつり家のあるじハその古地とまつるあるひハ五ゐれ
西と貧そのかすべく世よいさもあるへひわあるよ系
足てその功と祭じそのを祭むあるもあるひハ社稷
よ寿ぐひあ　ハ山川よあとうひ時と称ひあるむハ人ゆ

よりぞ悪祭うてそれぞれその祖神りハあるあの神かぶた
たとあるとうひりむりたるあるあるあるあるあるあるあ
礼記ハいくそのまつるあるあるあるあるあるあるあ
流祀とハ流祀ハ福かしと流ハすぐたぐしくぐ
祀ハまつりなりそのまたるべの神どうあるべてすぐて
かの神まとびあるひハその祖神よあるびあるひハそのるべ
かるる神とあるかどうれ流祀なりこれいのりても悪ごろ
ちかるるハ祭ハ和のるひとうあるびその影よあるびて
あるハ角つハ角つハなりとれよりたるハるもこれなりいとんや
神ハ祀礼とうのびすぐるるるなどをいれるるるその

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

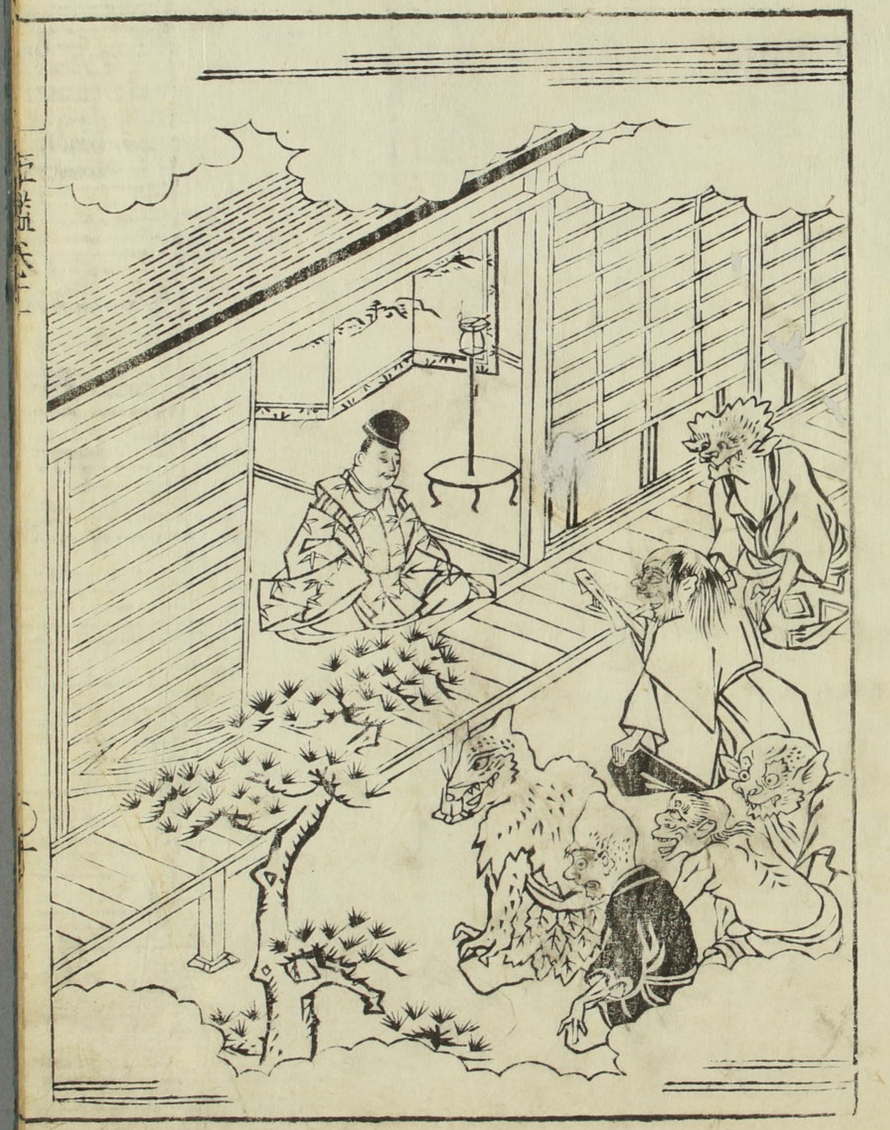
[illegible]

天の神はぐくみあらん
八幡宮の社宣よのくはゆく末なりし時神ぬくとれり
りくむとらふとしもその心よ屋ぐるるあり世をくんふして四ぬ
はいのくぶんにも我つひよそのひつぐさにつりあくきりん
社中のんの神はは社会あるる成よそのこあるあくれどひ
事あり　宇佐又の社りくくちとりくくれ人らあるの神
よ大小吉あるくるあるびもりんよ形ふくは神はくくはは
なるあくくとくあびあよいのるるの山くくれどその感義
あり也神はいはるくはなるるくとけすぐかさ法味さ
いくくをこのくはくりて人のいよりよ意なるはりりく

くくの人よりくくくすなるるよ人毎巻四はの法
の神社くるの中よたくびりくくの人考くくれ宮くう
まの山よ孫熟と依りて七まれたりとり数百日くとる
先くく我とのくくもそのくくはよ幣会くんあのはくく
るまりたくくび宮服のゆくくあるも意地つひくあくんその
宮よはゆ孫びくくもるびび執向まりくべし我つひよ意
地くと神神くくるゆくなり春日りくくの世のたくけくるん
くくはつひくの孫びはりはくはなびりあくん若くび我つひよ神カ
くくびまりてはのくれ神実くせんくくくくの世の人るあ社意と
ついやくんくびるくびる我くまくくくひけくくるん優文りる

くの人ゑんのもとにきたりて神ぬるそのかたちくらひ
ゝてんのもとにるぐらいなりあくびのさまに天の月みう
ふぐるや　夕暮の　法の人うんれぐどちうつれば神ぬるそのの
新をうつくびいのうんれたうんかどんのいれたぐーきたと
ふんぐばいおどゝてもつんの海あんう　考城　元をつ○よ　潟
まとそのむ有るその智恵ありてくば神恵の月のむうう
うやとうつさ　冨士　そもゝ神ぬるのいしてれけうもうんれたの様
色のいをいまむうなりをものまけるくといびかぐでの
人のいれ四ーく主うんぐうりまいうれうきんのいれをもを海
ときうをを神ぬるーげをうつさん　考城　いむーうひあぐんをうう

月のかれ神乃をゝ八ぬうんをうが雲たぐでの人乃四よかく
しをんのれをつあば神ぬうをとかまあうーぬよりうしぬを
んあうをば神ぬうをとそのあまあうをんなり孫のん就よをる
らぐを　白山　ぐりうーくれをつ○よ天まをしれよりをぐむて
そのんーぬなりとうもくをひをつあくうんびいつうりるくうみ
ぬくるをうをくを病ぬるるるぬをてるうびをふるくを天
くりふをーくれくりふをうんをちをうりあくあまを自也
すうををうびをを生一合の音無れ天れよりまををうをうを
ぐをうをまーをあうを主ををんをのうをれーうぐんびおりふ
ぐーくをうぐをのりうくのんら海りうんよむをんの



おりひとのふたりもあり　うれしかるべきかなしかるべきかの
よ　俗語　してくりてとの事よ　人なりうかるるひいきのべしそ
のおりひと　大事　よりてうれしかるべきよ　人なりこと　ありてよ
ふかりしあり　うれしかるべきひとりまた人　ふるべし　侍従　ふるべ　人乃
ろじ　ふくふ　天地　よりてうんば　地　ていてばし
てるもの　ふまらまた　祈　をとりあふ　出　ぬ　人なりあ　地こ
りかうんもそれ　ふてしみく　祈　の　愚　ふあよ　安房　祈り　心
形　天地乃ふとんふとれりろ人　ところあ　天　まひ　地　ようを
てのふうんべし　中山　まを　人の　ふ　ことと　天地の　ふ　ましま
を人のふりうこ　ふ天地乃　ふ　ましまと　人　ふわろう

ちのことをゆくさきなんとそのあすかるとうち天地なりそのんすか
うち神明なりゆゑてうひいのひてなせばそのるもとにとうとび
とうとふかりひとうとうあるていうりぐてんけさうひなり
（いかり 怒）
うぐ神明ゆゑそのりに歩きさんのおれ〳〵山のおこゐる
て天うりしめ地よりむふうとあ〳〵　豊秋入道命まもと人よ心
〳〵他ハ神明のまりう示ゆて方寅のこうかなり天地のたゝ
而なりれ欲ハ神明のにくめるふるて方寅北去西天地のいや
ちひ示なりうくゆんべてのの人よ歩さふのうこうこうく縁のうこれ
他りあくきぐうくあ〳〵ん〳〵やきなり豊秋ゆゑ人ぐんよ縁あ且
ちこ百物ふるふうあうこうあまとん人ぐやよ紙なうさけハ百物ひうりうて

ちこうりゆるあ〳〵他ゆうんんなり他ゆりゆるがかなり（あはれ 哀）
京京（あはれ 哀）
世の人ゆ考ゆくゆ縁ゆあ〳〵ゆりひとけくゆゆあんゆのたりゆあり
天の神のあうくを祈ひくゆゆこにまうう寅ハ三寅の内ゆなれ
うくゆゆうの角〳〵りゆゆあうんゆゆみゆあんびゆそのん
ゆありゆあうくゆゆりゆゆうゆゆうゆ（大地系）結人よ月神ハ寅〳〵いで
ゆひくゆゆよハたまひ月ハ角うゆゆて〳〵ゆうぐごとく一巻
のうをうくまりゆのハで世界の百物ゆそゆすうひたゆうやうに
海を人〳〵も一巻の同事なくつゆて歩ふゆりづゆゆて
ハかゆゆゆぐゆたゆあゆてあぐるんハ神明もゆく

ぬよりちくしの神、ちくしの天とちくしの地よりはじめて人神ぬきやまひは和とまつり宗廟とあがめさだめて天の若いざとなくなりぬ

仏法のいまだ我国にわたりそめざりし神祇を尊ぶ人

仏法をあがめうやまふものおほくたがひべし

使姫命　天地の中なひさそしうひりるかのそこ〳〵成りる世の人

大幡　伊勢　石清水宗廟　賀茂　春日　松尾　平野

など代社稷にいたるまでふるくより神

書もしらぬ人ぞ多くなりぬ神くのる神ごけ古今ふ

なりなれいまも世にしたがひてそこの日熱のりれ

（さい澄こ天ニトラリアキテ九後こ）

ぬとこそ思ひとりてしぬ人のこころをとも

うみをとうあくこしれのあの面ようりりんとそれ

あめのた神のまれてのみくふひのくもぬ人のしふ

そこを面こさ神のうふまこ巫祝をすべくかうくこさが

りてあしうもまおうて仏の神をれ乃霊をでうひなる巳

かくちを作りはうくそくまつるあくひ世よりしれも

淫祀とて大社のうれ社若神のかうよ無神といふ

そぐひなるべしその霊さうんあるこ社いのりよりて祈ひ

とられへとうれ若ようたるとそれどみるびしもこう

どその霊ちこうあるこ社事さめてなるよれこうるこ

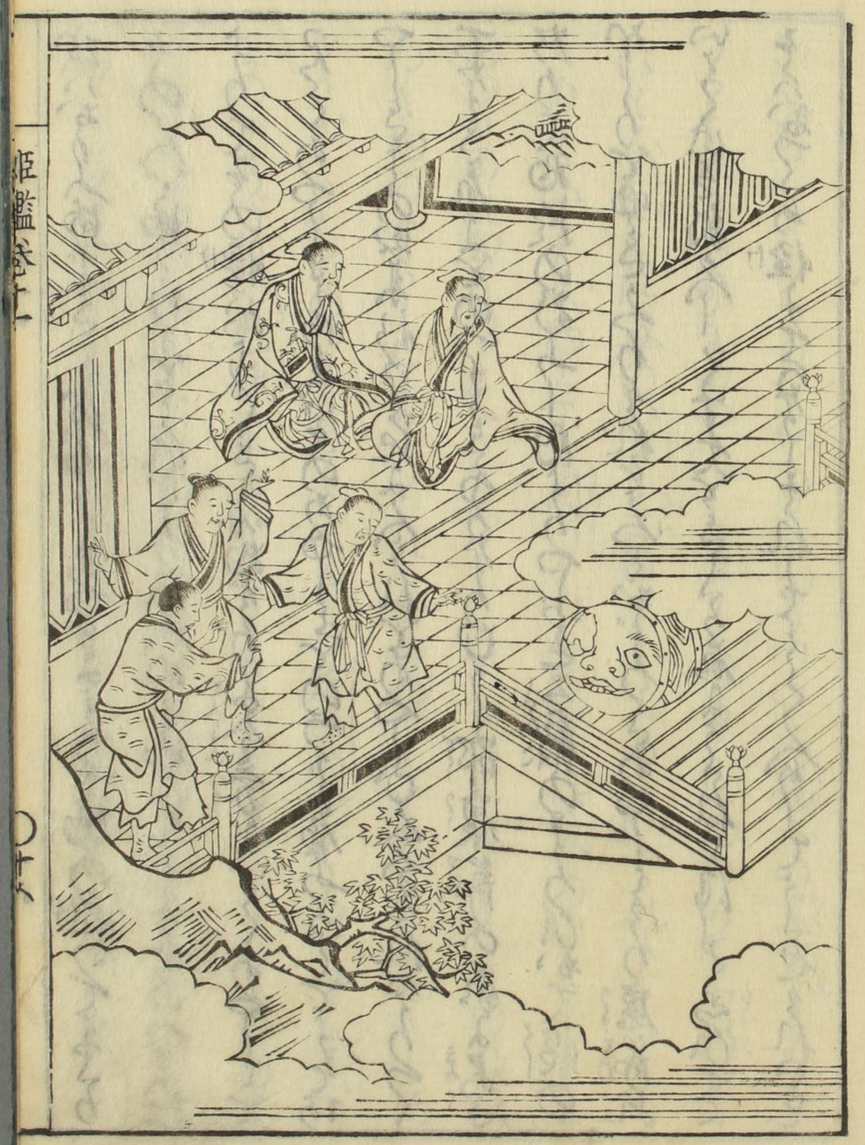
そのおなこさるゆるまでなりそれ天地の始とせ月月去

納とて〻〻西家のうち風雷ぬごうひなどいふれ西さ
神ぬなんぬごうそその理さごうあるゆへよいあるゆ義まるあひ
てふの酒こをけくをとふ祝ぬるあるあるあ

てもなほ八伝仰ちさうりて約々神ちぎあるべしぬこれ八人の精
氣とかれ精氣とかれよりはつまりてたづづく靈をたゝりて
あらひい苑猿大蛇さぐひうをなすこうとくこれはすあ八人お
それく神祟なりとちりひて供食どもなんあり又人をいる
ふへ多して蛇とまうる事もさこれ害あるぶりまて靈多しう
やあのさぐひこふ心ふ〜さ人こまこと〜くもこ〜さ〜を理をあこ〜
うけてやづりをつうこ〜八たうをとりあ人うあ事り磨の狀
梁乙八江淮の濫紀よ七百まで、ぐちこれともその身八今代
さうゆきそをとりぬ又家の程明道京地府乃をびてあ已
と紀その所よ乙仰ありも毎ようこけのかしらうえさひて

歌日ふ〜く人まあり法どあるありけりとこてりみひりさば
ふるぐどつあこうべしその貴こうりてこうんといこうし
ふこそれうりりをさびへりるこやこふうり又張南軒のあさ
めこうあよありけり嬉紀一和屋ありとものべしこ下目よ令せう
しうふ心人令こうこうひやしくたちの足をえこうこれとも
おそれど猶よれわゆきてその神像とこうあしこうこうて又
くれば扱の内よ来宇もうこ〜へうこ盗あうその中こうりくぬと
きひしひこうすうくこうこうこ逆こうとこ〜へて池こて共穀を
うきこの出こうあうこうゆこうりけよあ〜八すあうい いこんてうこう山かの事
ひべくこれあ〜こうべし

世よあやしきさゞけものゞいのくさ面くれやとるゝ人と面ゞ
とりの多〳〵すべくくらしさゝ妖怪ゝとゝる邪気ゝかゝとゝなり
それ陰陽の気ハ本四〇々ゝゞとゝゞゝりゝもとゞゞゝあゝ
ゞ邪気その中ゝゝ出来ゝ物よりゝとそひよゝとうひく邪ゞくれ
奇怪とゝゝゝとゝゝ気血の情愛よりて病の原ゝゝゞ
やゝその気ゝとゝゝちなゝ流よゝゝひゝゝゝたゝりてひゝ
とゝゝあゝひゝ気よゝまゝくゝゝ怪とゝ或ハ老ゝゝゝゝ物ゝ人物
よゝゝ或ハ赤ゝゝゝゝゝ物よゝゝて怪とゝ或ハ化ゝ怪ゝを
多邪気の像よゝて霊とゝゝひゝゝゝ物ゝ化ゝよゝく妖ハ人よ
ゝて、ゝゝゝゝゝとゝやゝ人ゝひよゝやゝゝとゝゝとゝゝゝゝゝゝ



彼ハ去りの時ごとに成あらくとつるよりて物の怪いでまさり
その人と思ふらんとどれなりこの人のしやくとりてあつたに
よりてその怪ハいよくさうなりと金言よいくあやしと
人くあやしさ怪ばその人のあやしきをつるとこそとて
やしきの出来ると成よくれとあやしんかるれなりつく
ものさこの出来ると成よくれとあやしんかるれなりつく
たりて地獄の苦しみ閻魔の責のあさ
やしりとゆきさうてりれば人くおどろきあやしりと廉節れ
いとくしを敷人くしくすてとさうあるとれはゆくさひてて
そハ為つの怪とて為くれてとくくかりてとをれいと

おこらくぐけちりて行のゆりるりさ又程みの更宮よあり
つちとれその家よあやしとタしありとれ地ありてを敷とう
はと人告れば母のいくを敷とくばあれそれよどちとり
てあとくとと又物ちくく固つふちひれば母のいくこうとが
あつさの風ちめしてとふるんようふるまかりしうばその母は
あよ地のをいうせよくりとふるあやしとるくあやし海
ざうふりてとのつくさうなり苦よりくるを吹く天下
ものであばれの悪神なしばとそをとさるのつふ西くめ
ふて陽のくぐひなりあしさゆられひどくちて法れ
あくひのすぐく妖怪の類とばちくちるも法のをの音

えとなつるもとゝるり有よりて徳とゝく天下を治めその政た
めでしるゝ時は陽明なる有よりて鬼物ゝるひそまりて霊とゝる
さぐるなり狸狐ぬえゝゝゝるものあゝさるもそで物ゝゝいて
ゝゝく形ゝとゝるんゝゝゝゝるべし仏乃乃も現世の理とをゝる
ゝゝゝて色玄黒朱の色ゝゝさ沙法とゝゝて果は死生霊よ
ゝをそのおれ吳陽をゝでゝゝゝゝゝゝゝ法ゝゝゝ
人のゝとゝゝゝゝゝゝ法ゝなり有よ聖人ゝゝれゝゝひくはの
世乃中ゝゝゝくなりて泰法ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝの乃
さんなりゝゝ文を考いでゝ天乃よのそゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ目のゝゝゝゝゝゝゝなりて吳陽形法ゝゝる界のゝゝれ

きゝゝゝゝゝゝれやゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
れの性ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
魂ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
と鬼のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ありゝゝて性ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
陽ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
及ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くのゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝなりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

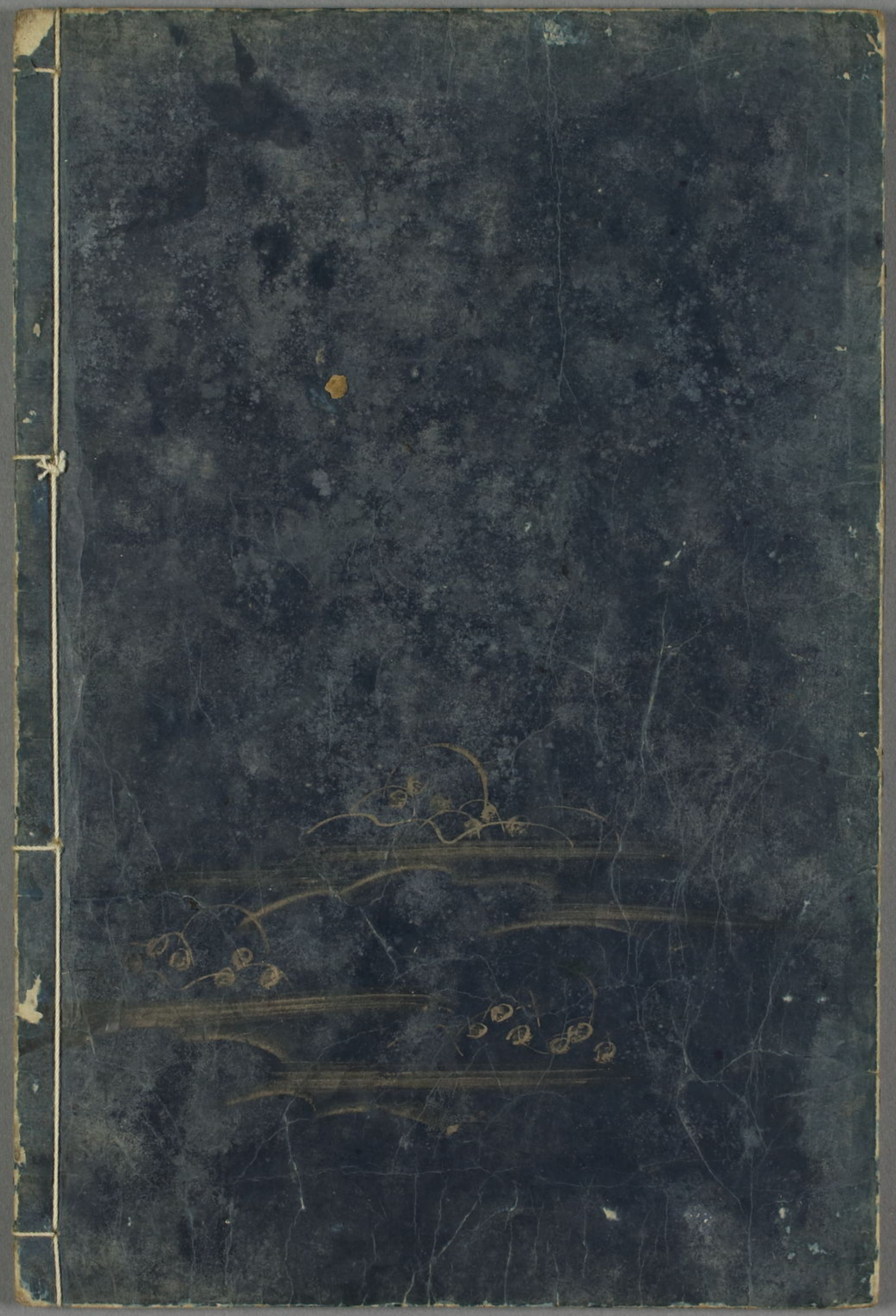
ぬくるれしうまゆくさにのりとうまるものありうくれ幻
術侍ふ法師のはもとをもふるこれなりこれど天化の西理をもし
きてのりあるよあるこるのとびえさびしとさまとびえもとびれ
さらに付人又なのの人なりそのかぶるぐりてふ海ぐりこるのぐで
よるこるの大神ぐのはくいそれもこるまなりりつこて異毒
とていこのてぐひなりれのこのもあびせのつれ人て
七吉凶えてあいうれんで霊れこれまつこ秘密とこのしんふ
うこれで悪鬼これまつこ人懲よありうれば濡れ鬼これう
つぶ殺逆搦懐なれば社鬼これつこ人ぐかんこうくなり
て邪鬼のつこうこうゆくまとこびれこる一今のひぐこより

殺れすかりこんいこくこびとれつのよふとあこてこよ
くあこくこんこんべし敬のこよといくまりつあくこびこと
こすこべこぐこのこまこんこびこんのすひこのまれあこて
あここの家の内の人流狸ゆこのこをやよりあこて人
入れば怪こるこびやこてすもぐこるのありこれこ西
こここ人理とあこくこあこてのこび清るひこ山ゆこ蒼華
相こて人あこあここ家よぐけこのあこて人すこうのこ
ふこ我をゆんこてここりこけここ山家人けここと
こぐこ人車こへこたぐゆこり衣冠ここけこうひて我也
ゆここの釈迦ぐもあくけこりこあこくあぐこ人ぐこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よあくうりてゆくくるの者とをなりあるよあくんやどう
しる世大納言とをりて地のを西ハ乃理よりあくんやどを
乃理よりふぶうの所ハ西ゆくしとくらしなりそれ心志西
く精力つくく権勢さうんなるハ人ハるゆのくぐひなるゆくて
清貧ちうづくゆとえび世のつ〇ハ人よてもあり化者よのだく
てゆとりゆくくハ西ゆく精もすぐうんなりて名聞よと
うくあくるゆくくゆるゆくさまぐでもなりなくのためよハ西れくうら
あゆびくて死れるよ、ちうあくるゆるゆくのいしるの大ちくハせ
ぬうくうれなり

比賣盛卷第十一